

医療技術学部

学校推薦型選抜(一般) 小論文

問題 以下の文章を読み、設問（問1、問2）に答えなさい。

「頭がいいのに、上級生になるほど成績が落ちるのはなぜか」

小学生のころは、たいして勉強しなくても成績はよかったのに、中学生になってから成績が落ちてくるといふ生徒がときどきいる。ほくは、そういう子を見ると、つい昔の友人だったY君を思い出してしまう。実際、彼は小学校のときは、非常に成績が良かったというもっぱらのうわさだった。ほくと知り合ったのは中学生のときで、成績は少し下がり気味だったらしい。そして、高校受験でも、大学受験でも、志望したところには入れなかった。

Y君は、非常に頭のいい人だったと思う。文学をはじめ、いろんな本を読んでいて、話も理知的で機知に富んでいた。芸術やスポーツのセンスも、うらやましいくらい良かった。ある意味では、早熟だったのだろう。国語に関しては、ずっと成績も悪くはなかった。このような機転のきく生徒は、小学校ではあまり苦労しなくても勉強ができるものである。つまり、小学校のうち、頭が良ければ、頭だけで考えて解ける問題がほとんどなのである。ところが、中学校、高校と進むにつれて、そうはいかなくなる。

彼はけっして、油断したわけでも、サボったわけでもないと思う。むしろ、「こんなはずはない」というアセリすらあったに違いない。今考えてみると、彼は、一見スマートな方法にこだわりすぎていたようだ。たとえば、教科書や参考書に書き込みをしたりするのは、美しくないからいやだと言う。むずかしい問題に出会ったとき、自分の力で試行錯誤しながら解いてみるというよりは、教師の説明するきれいな解き方を写して納得しているだけのように見えた。要するに、マメに手を動かしながら考えるということができなかった（しなかった）のだ。これは、いずれ限界が来てしまう。勉強というのは、「知能」だけでもないし、「努力」だけでもない。学習や思考のスキルのなものが大きいことを、あらためて感じてしまう。

スキル：正しい知識を応用、分析して、より理解を深めるための技法を具体化して実行できる能力。

出展 市川伸一．勉強法が変わる本－心理学からのアドバイザー．岩波ジュニア新書：p.11,2000.

問1 「頭がいいのに、上級生になるほど成績が落ちる」理由について、著者の考えを200字以内で述べなさい。

問2 「勉強にはスキルのなものが大きい」と筆者は感じています。このことをふまえて、中学、高校で、あなたはどのように勉強と向き合ってきたか。また、大学ではどのように勉強と向き合うべきか。あなたの考えを1,000字以内で述べなさい。